

# モンテッソーリ教育の 幼稚園でも自然音を導入



なかしま ゆき  
中嶋万祐子さん

35歳 米国公認ロルフアー

私は現在、カナダの Vital Health Clinics という統合医療クリニックで、ロルフイング(※)を中心とした統合療法を担当しています。

喜田圭一郎先生きたけいいちろうの自然音との出会いは、学生として音楽療法、環境音楽を専攻・研究していた2003年のことです。それ以来、喜田先生の自然音CDが心地よい空間づくりに活躍してくれています。

2014年、就学前の子どもが通うモンテッソーリスクールの女性教師であるクライアントさんと、セッションルームで流している自然音の話題になりました。その特長を説明すると、彼女はそれに共感し、CDを購入していかれました。

モンテッソーリ教育とは、20世紀初めに、イタリアの医学博士マリア・モンテッソーリによって考案されたものです。

この教育法は、大人が子ども<sup>こども</sup>の自発的な力を援助する存在に徹することで、子どもの自主性や好奇心などを育むことを主眼に置いています。モンテッソーリ教育は欧米で高い支持を受け、近年は日本でも導入する幼稚園や保育園が増えていきます。

1年半後、再び彼女を施術していると、あのときから学校全体に自然音CDを流して、教室内の環境づくりに効果を感じていると報告してくださったのです。

モーツァルトなどのクラシック音楽も試したそうですが、音楽の旋律に意識が向くことで、逆に子どもの集中力を削いでしまうのに比べ、自然音はあたかも自然の中で過ごしているように感じられ、生徒や先生にとっても好評だそうです。

子どもの心身を癒すアプローチにも強い興味がある私は、今では定期的にスクールに遊びに行かせていただいています。園児たちは教室の中で、のびのびとした表情で過ごしています。

「自然音を聴いていると気持ちいい」と伝えてくれる子どもも多く、音を聴いている身体の知性の高さに改めて感心しました。



※米国の生化学者アイダ・ロルフが創始した、筋膜へのアプローチを特徴とするボディワーク。